

イオノゾンドの所在地は国分寺？

JJ1SXA 池

2006 年秋号の JARAL-NEWS は、久しぶりにじっくり読みました、HF 帯 IBP ビーコンの話、PLC (高速搬送線通信) 問題、NICT の宇宙天気予報の話等々は、大変興味深く読みました。

IBP は、以前から、たまにはワッチをしてみました、何しろアンテナが？・・・で、余り活用できてはいませんでした、また、DX に復帰したいと思っているので、今度は真剣にワッチしてみたいと思います。

ピンポイントで、例えばアフリカとかヨーロッパ方面のコンディション把握の場合は、3 秒毎に周波数を切り替えて、各バンドの状況を見るのは良いが、シングルバンドに絞ってビームを向ける場合は、JA2IGY から RR00 の約 323 度へ、次の VR2B の 246 度へ、後は、4S7、ZS6、5Z4、4X6、OH2、CS3B の 336 度までは、少しずつ動かせば良いが、ここから、LU4AA の 89 度へ一挙に 113 度回転、OA4、YV5、4U1UN、VE8、W6、KH6WO の 87 度までは細かい動きで、ZL6B の 154 度へ一寸大きく動き、次の VK6RBP は 189 度ですが、35 度の差ながら、私のアンテナは、南 180 度が基点、35 度では無く、大きく 325 度も回さないとビームが向かず、私のローテーターの回転速度では追いつきません。

シングルバンドで聞いていれば、180 秒(3 分)で世界一周ができますというのは、GP 等の無指向性アンテナでのワッチで無いと、私のビームアンテナでは無理でした。

PLC 問題も DX に復帰しようと思っているので、大いに気になるところですが、JARAL の芳野委員長も頑張っていたいただいたようですが、仕方無いと諦めざるを得ないのかな？

後は、NICT の宇宙天気予報の話ですが、非常にわかりやすい解説で、「サイクル 24 は、もうすぐ」というのも嬉しいです。

電波伝播の基礎知識から、電離層嵐、デリンジャー現象とか、太陽黒点数等についても、少し恥ずかしい話ですが、再度勉強になった次第です。

イオノゾンドについても、再確認です、このイオノゾンドは、現在、東京都国分寺、北海道稚内、鹿児島県山川、沖縄県大宜見の 4 箇所に設置されているようですが、問題は、国分寺のイオノゾンドです、情報通信研究機構(NICT)の本部所在地は、東京都小金井市、イオノゾンドの設置場所は小平市が正確の場所だそうですが、NICT の敷地は、小金井市、小平市、国分寺市の境界をまたぐ位置にあるので、NICT 本部のイオノゾンドの所在地が、理科年表などで国際的にも国分寺となっていて、これが公称所在地になっているとのこと、何故このようなことになってしまったのでしょうか？地図で見ると、境界線ではあるが、国分寺市には全く入っていないのに一寸不思議です、立川市、昭島市の両市にまたがる「昭和記念公園」は、昭島市側の敷地の方が大きいのに、一般的には、立川市にある「昭和記念公園」と言われていて、立川市の住民としては、大威張り？(笑)、こちらは立川市にも入っているので問題は無いのですが・・・